

柳澤寿男

Toshio YANAGISAWA, Conductor



バルカン室内管弦楽団音楽監督（★1）、コソボフィルハーモニー響首席指揮者、ベオグラード・シンフォニエッタ名誉首席指揮者、東北ユースオーケストラ指揮者（★2）、京都フィルハーモニー室内合奏団ミュージックパートナー。



受賞歴： 2000年東京国際音楽コンクール（指揮）第2位受賞
2024年日本国外務大臣表彰

著書：「バルカンから響け！歓喜の歌（晋遊舎）」：

趣味：スキー、シュノーケリング、鉄道の旅、スイーツ、健康、日本史

旧ユーゴスラヴィアを中心に活動する指揮者。

パリ・エコール・ノルマル音楽院オーケストラ指揮科に学ぶ。指揮を佐渡裕、大野和士氏の各氏等に師事。スイス・ヴェルビエ音楽祭指揮マスタークラス・オーディションに合格し、ジェイムズ・レヴァイン、クルト・マズアの各氏に師事。

2005-2007年、マケドニア旧ユーゴスラヴィア国立歌劇場首席指揮者。

2007年、UNMIK 国連コソボ暫定行政ミッション下のコソボフィルハーモニー響首席指揮者に就任。日本政府文化無償援助での楽器支援を実現。

2019年9月、コソボ大統領来日時に天皇陛下が柳澤寿男のコソボでの活動に言及。

またコソボの芸術・文化の発展とバルカン室内管弦楽団を通じた地域和平への尽力によりコソボ大統領勲章（文化功労賞）を叙勲。2024年8月には、日本とコソボとの相互理解の促進という観点から日本国外務大臣賞を受賞。

そのほか、ベオグラード国立歌劇場でのプッチーニの歌劇「ラ・ボエーム」への客演のほか、サンクトペテルブルグ響、プラハ響、西ボヘミア響、サラエボフィル響、セルビア放送響、アルバニア放送響、イスタンブール国立歌劇場などに客演。

2007年、旧ユーゴスラヴィアの民族共栄を願ってバルカン室内管弦楽団を設立。2009年、コソボ北部ミトロヴィツァにおいて UNDP 国連コソボ開発計画、国際安全保障部隊、コソボ警察などの協力のもと、コソボ紛争後初となる混合民族音楽家による交流コンサートを実現。その過程を追ったドキュメンタリー「[戦場に音楽の架け橋を](#)」は第6回日本放送文化大賞グランプリ受賞。2010年、ニューヨーク国連総会に招かれ演奏。2011年には、UNDP 国連開発計画アルバニアと共にロマ民族の子供たちとの共演コンサートを実現。2015年からは World Peace Concert を一年に一度世界各地で開催している。これまでにウィーン、ジュネーヴ、ベオグラード、サラエボ、ニューヨーク、東京などで開催し、諏訪内晶子氏（ヴァイオリン）、ペーテル・ヤブロンスキー氏（ピアノ）、パスカル・ロジェ氏（ピアノ）、山下洋輔氏（ジャズピアノ）など世界的なソリストたちとも協演を重ねている。2016年には、在ジュネーヴ国連欧州本部総会議場（在ジュネーヴ日本政府代表部と国連欧州本部主催）で演奏を披露。2022年、ローマ・パルコ・デッラ・ムジカにおいて、バルカン室内管弦楽団にローマ国立歌劇場管弦楽団のメンバーを交え、コリヤ・ブラッハー氏（ヴァイオリン）と協演。バルカン室内管弦楽団はバルカン半島地域文化の貴重な架け橋となっている。

また日本においては、著書「歓喜の歌」に共鳴したミュージシャン玉置浩二氏が尊き命あるものとの共存、平和への祈りを込め管弦楽曲「歓喜の歌」を作曲。以来、共演多数。



柳澤寿男とバルカン室内管弦楽団の活動は、NHK 総合テレビ「おはよう日本」、NHK E テレ「SWITCH インタビュー 達人達 石井竜也×柳澤寿男」、NHK BS1 テレビ「BS 特集」 「エルムンド」、TBS テレビ「NEWS23」、日本テレビ「News Every」「News Zero」、フジテレビ「ニューススピーク」、テレビ東京「世界なぜ?!そこに日本人」、BS ジャパン（テレビ

東京系)「戦場に音楽の架け橋を(日本放送文化大賞グランプリ受賞作品)」「分断された音楽の架け橋」などで放送。日本の高等学校教科書や副教材「世界史A(実教出版)」「最新図説 現社(浜島書店)」「新しい公民(浜島書店)」など記載。

日本国内では新日本フィル、日本フィル、東京フィル、東京都響、東京シティフィル、札幌響、仙台フィル、群馬響、名古屋フィル、京都市響、大阪フィル、日本センチュリー響、など各地で客演。2015年より東日本大震災復興支援のひとつとして坂本龍一氏監督による東北ユースオーケストラの指揮者(*2)をつとめ、同時に日本を牽引するポップミュージシャンとフルオーケストラによる融合プロジェクトの指揮者を務めている。2020年、バルカン室内管弦楽団とドヴォルザーク・チャイコフスキーの弦楽セレナーデのCDをリリース(ベルリンAUDITE社)。



●バルカン室内管弦楽団プロフィール (★1)



1990年代、ユーゴスラヴィア社会主義連邦共和国からの各地独立紛争により断絶された各民族間の共存共栄を願い、2007年6月、日本人指揮者柳澤寿男によって設立。

2009年5月17日、コソボ北部ミトロヴィッツァにおいて、国連コソボ開発計画、国連安全保障部隊、コソボ警察などの指導・協力のもと、コソボ紛争後初となるアルバニア人、セルビア人、マケドニア人の民族混合オーケストラによる歴史的コンサートが実現。また2010年ニューヨーク国連総会の「バルカンリーダーズサミット」で演奏を披露。2015年より、国・民族・宗教を越えた「世界市民」を願ったWorld Peace Concertと称したコンサートを世界各地でおこなっている。

これまでに在ジュネーヴ国連欧州本部総会議場(在ジュネーヴ日本政府代表部・国連欧州本部主催)をはじめ、ウィーン、ベオグラード、サラエボなどで開催し、パスカル・ロジェ(ピアノ)、ペーテル・ヤブロンスキー(ピアノ)、諏訪内晶子(ヴァイオリン)、山下洋輔(ジャズピアノ)など世界的なアーティストと協演を続けている。またアルバニアでは国連開発計画アルバニアとともに、ロマ民族との共演コンサートも開催されている。2022年、ローマ・パルコ・デッラ・ムジカにおいて、ローマ歌劇場管弦楽団メンバーを交え、コリア・ブラッハー氏(ヴァイオリン)をソリストに World Peace Concert を開催。

楽団員には、バルカン半島各地の主要オーケストラである、サラエボフィルハーモニー、セルビア放送交響楽団、ベオグラードフィルハーモニー、ベオグラード国立歌劇場、セルビア・ニシュ交響楽団、コソボフィルハーモニー、マケドニアフィルハーモニー、マケドニア国立歌劇場、アルバニア放送交響楽団、ソフィアフィルハーモニー、ブルガリア国立放送交響楽団などから参加するメンバーで構成され、特に旧ユーゴスラヴィア中南部においては、ほとんど唯一の異民族間音楽文化交流の貴重な架け橋となっている。

2020年には、CD「ドヴォルザーク・チャイコフスキー：弦楽セレナーデ(ベルリン・オーディエテ社)」をリリース。さらにはクラシック音楽家のみならず「世界市民」の理念に賛同するアーティストとの共演も行っており、石井竜也氏、八神純子氏、タケカワユキヒデ氏ほか、2024年6月には、玉置浩二氏と大阪万博記念公園お祭り広場の野外特設ステージで、2日間で2万6千人の観客と平和祈念コンサートを行った。コンサートの模様は「NHK MUSIC SPECIAL 玉置浩二 ～愛と平和のハーモニー～」として8月に放送された。

